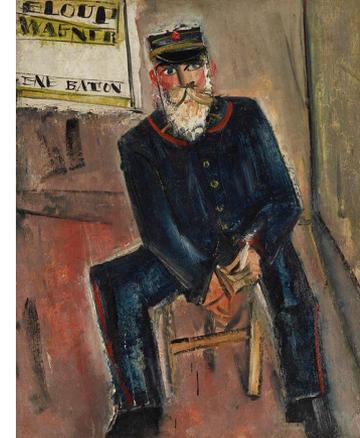


令和5年度 住まい環境整備モデル事業
【課題設定型・事業者提案型】
提案内容の概要



事業名称

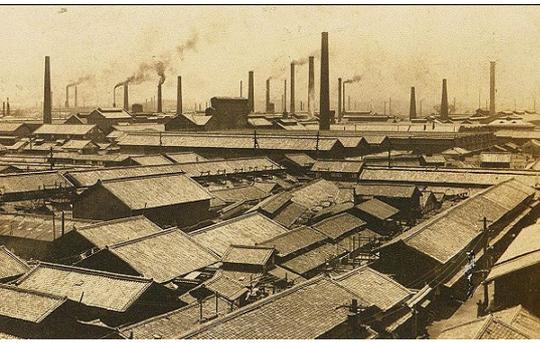
佐伯祐三のアートで繋ぐ
地域と共生する障がい者の職と住まい

【代表提案者】社福法人 光徳寺善隣館



新園舎のイメージ

1. これまでの取組



戦前の中津 = 工場 × 不良住宅地 × 貧困



たえず種を蒔けよ
たとい鳥が啄むも

開設者 佐伯祐正

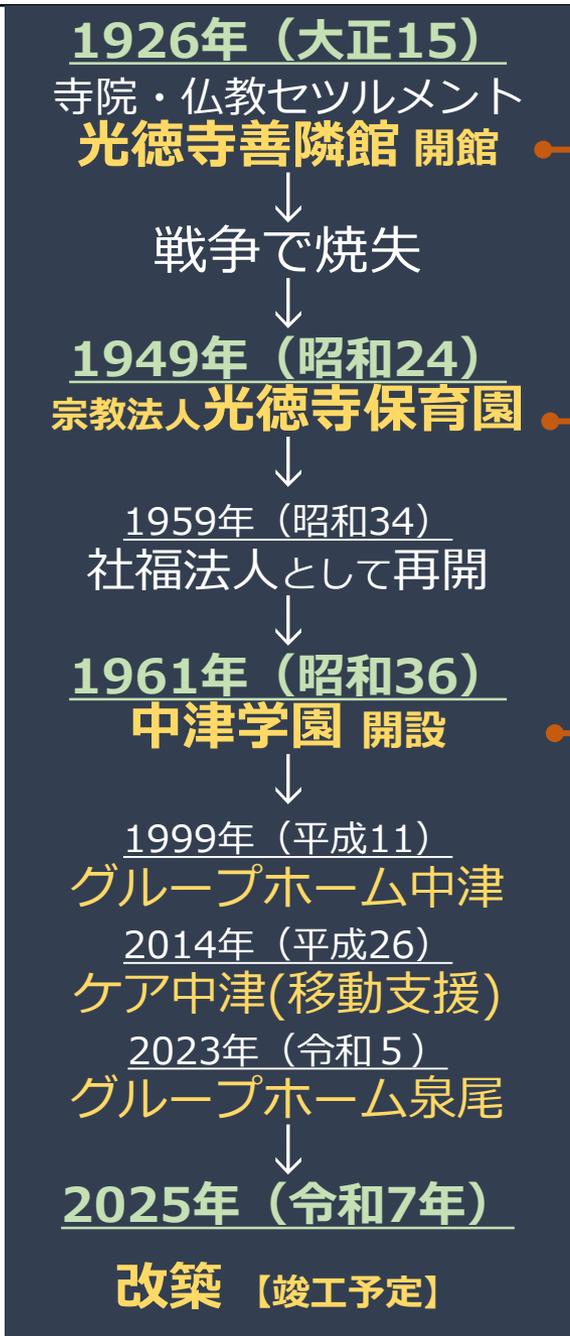
第一種 社会福祉事業	S.34	障がい者 入所・支援 施設
第二種 社会福祉事業	S.34	障害福祉 サービス事業 移動支援事 業
公益 目的 事業	H18	日中一時 支援事業

貧困地域
セツルメント

戦災復興
母子家庭支援

障がい児支援

新たな
展開へ



2. 現状・問題意識

- ▶ **変化する居住地像**：商店街を有する戦災を逃れた下町（木密地）や住宅団地が隣接する居住地だが、現在は隣接する都心の急激な不動産開発影響下であり、新住民が急激に増加
- ▶ **高まる障がい者福祉ニーズ**：法人による長年の実績に加えて人口増が相まって需要が高まっている。一方、みえにくい困窮（者）対応など、地域に開く福祉が求められている



- ▶ **法人建物老朽化**：建物が老朽化・設備陳腐化が進行し、補修では児童や職員の安全と快適性が担保できなくなった

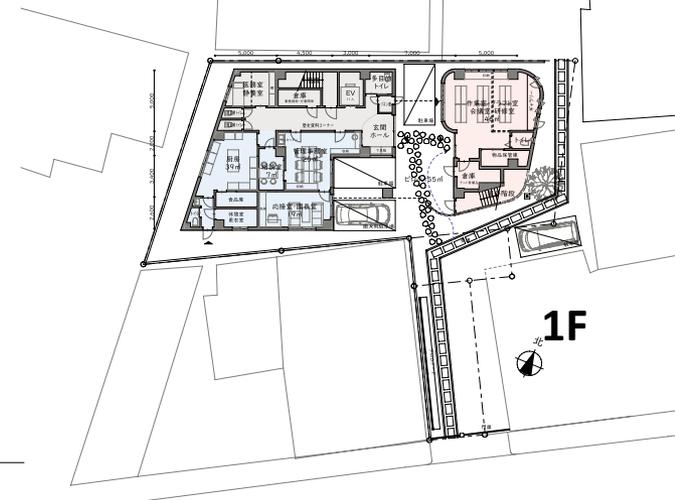
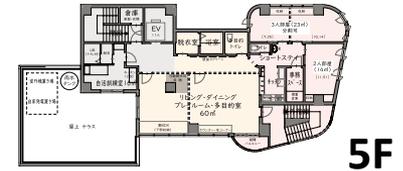


- ▶ **地域防災拠点**：淀川氾濫＋地震液状化＋密集市街地＋住宅団地における地域防災の再検証が必要
- ▶ **地域連携**：商店街などの地域活動が活発なエリアだが拠点が不足。防災をはじめ本事業と連動する仕組みづくりが課題
- ▶ **新たなセツルメント再興**：戦後は障害児福祉に特化してきたが、今日的セツルメントの具現化が課題

3. 提案内容

建物プラン全体のコンセプト

- 1** やわらかく家庭的な雰囲気でもみ込むデザイン
 Affordance Design
- 2** 環境・個性に順応する柔軟性の高いユニットデザイン
 Gradation Unit ・ Flexibility Design
- 3** 日常が非常時の支えになるしなやかな防災デザイン
 Resilient Design
- 4** ひとが出会い・ふれあい・協働する社会とつながるデザイン
 Collective Design ・ Visualized Design



3. 提案内容

アフォーダンス・デザインの導入

障がいに応じた「五感」+「感覚運動」を受け止める順応型のアフォーダンス・デザイン導入と防災性(機能)確保

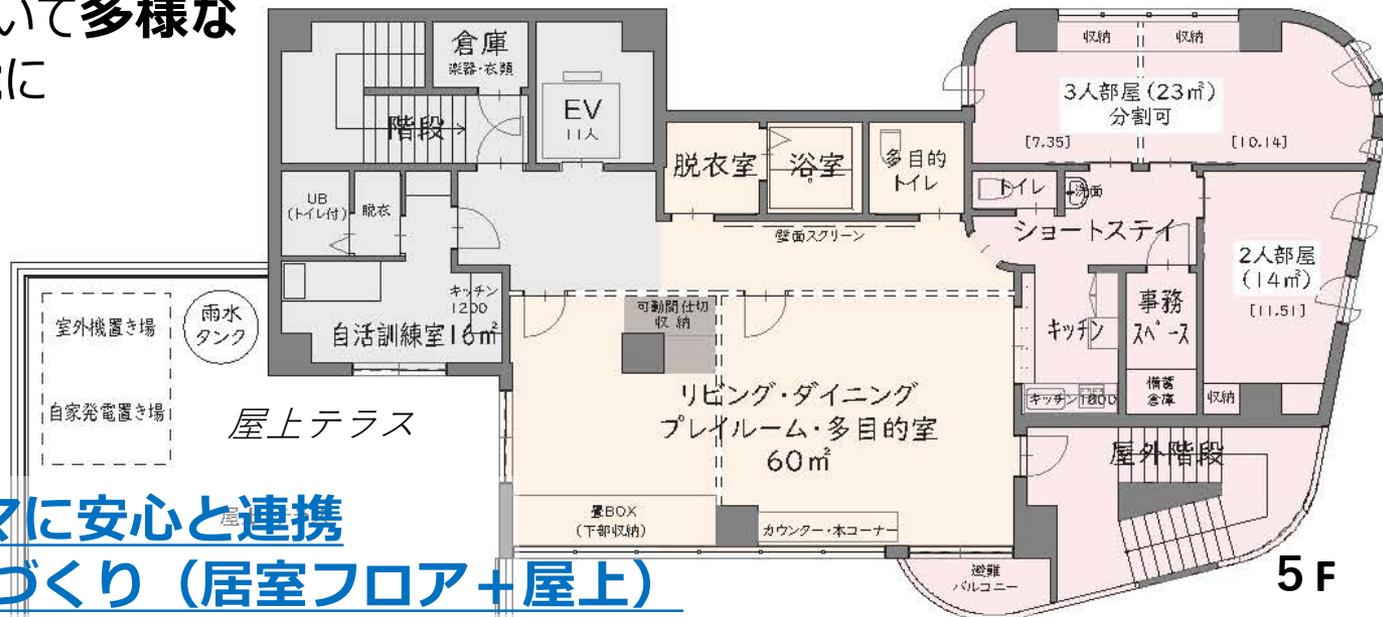
- ▶ 可動建具(壁)の開発
- ▶ 日常と非日常の変化を受け止めて防災性確保

① 居場所を変幻させる可動建具(壁)の開発

アフォーダンスデザインとして、「ユニットフロア」・「可動建具・壁・間仕切」、「家具」による順応型デザインを導入⇒性別・年齢・人数・障がいの違いなどの**状況変化に対応**し、**居住フロア**において**多様な居場所づくり**を可能に

*アフォーダンス

空間属性(色・明るさ・温湿度・香り・狭さ高さ・段差・材質・居場所等)
自体がユーザーがどう関与するかというメッセージを発するという考え



② 「防災」をテーマに安心と連携を生み出す拠点づくり(居室フロア+屋上)

高潮など災害の際には**地域住民(特に知的障害者)の避難場所**として施設開放
①の**可動建具を避難ブース**として活用するとともに**屋上に防災機能を配置**(屋上庭園・イベントブースを日常的に活用)

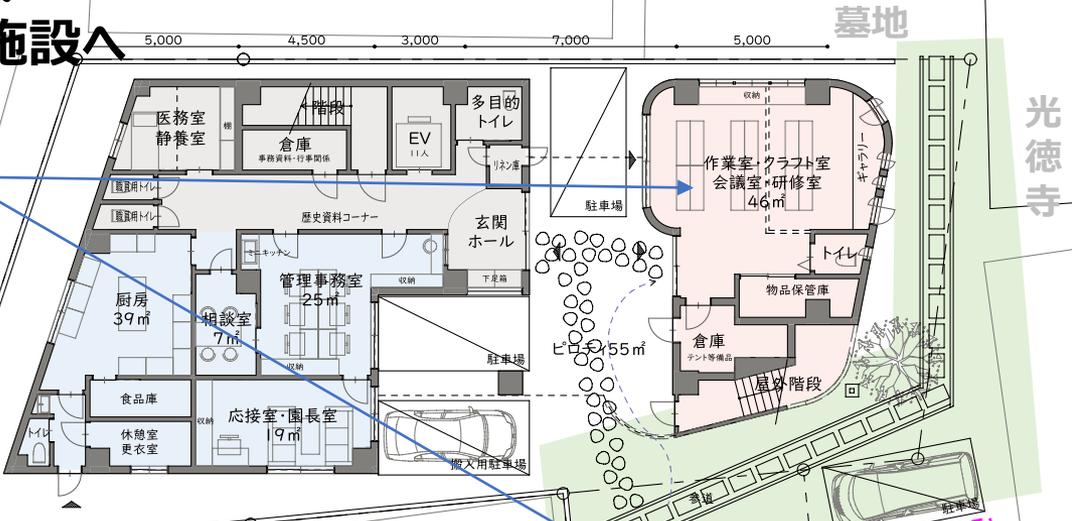
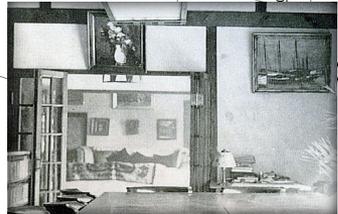
3. 提案内容

新たなセツルメント拠点の再生

- 障がい者・施設に対する忌避意識
- 閉じた施設→緩やかにまちに開く施設へ

- ▶ 自然に知る・出会う・気づく機会
- ▶ 多様な主体がつながりやすい「フック」

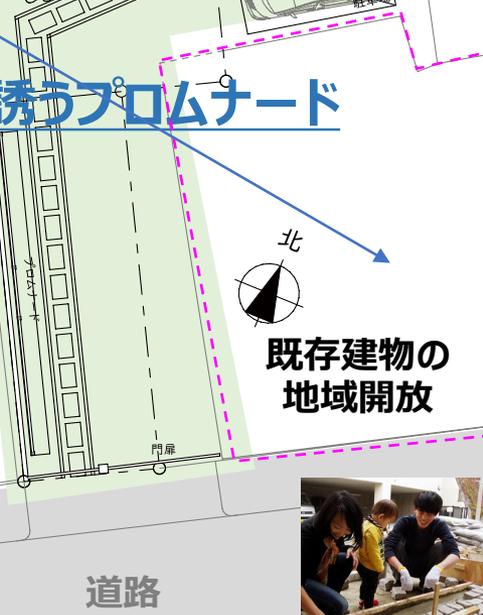
③ アートがつむぐみんなのアトリエ 1Fクラフト室・ギャラリー・カフェ



子どもたちの生活空間 + 中間的就労の場
(障害児アート検討) → チャレンジSOHO
住民や寺院参拝者も利用可能
新設 1階と隣接既存建物の地域開放

④ アートをフックに人を誘うプロムナード

街路を建物敷地内に取り込み、セツルメントの歩みや佐伯祐三アートを体験できるプロムナードを整備し、子ども・地域・アーティストなどが協働するワークショップで交流と愛着創出



3. 提案内容

アーカイブがつなぐ今と未来

- 認知度を上げ、歴史を現代に
- 連携・共創・発信機能の充実

- ▶ セツルメント+アート歴史資料の発掘・整理
- ▶ 3時代の拠点模型・図面化
- ▶ 現代版セツルメントチームの結成

⑤ 図面化・模型製作（初代・現在・新築建物）

既存資料や写真、当時の関係者への聞き取りを通して、**初代光徳寺善隣館の図面再生、模型制作。**
スロープ階段など特徴的な**現中津学園を実測して図面化+3D・VRデザイン化**



簡易ソフトで実験中→



⑥ 現代版善隣館セツルメントチームの結成

100周年を迎える改修事業を契機に、地域の各団体、商店街および光徳寺や中津学園関係者をはじめ、社会福祉・教育・美術・建築・企業各方面に呼びかけて**記念委員会を設置**するとともに、各テーマ関係者による**佐伯兄弟の痕跡を現代的に再構築したイベント**、拠点運営、福祉支援、防災活動、アートグッズ製作、シンポジウム、SNS発信などを実施。そのプロセスを通して、**多様な主体が連携・共創する持続的・実践的な現代版セツルメントチームの設置**を目指す。



祐正

祐三

4. 期待される効果

- ▶ 対象地は中津エリア、対象者は障がい児（者）、周辺住民、こども、美術愛好家ほか
- ▶ **現代版セツルメント**を他地域で展開可能に
佐伯祐三アートは国際的展開も可能
- ▶ アーカイブ・クラフト室・ギャラリーなど地域に開かれた施設運営を通じ、障がい児・者の居住安定、自己実現（中間就労的職の確保）による自主自立の精神を確立するとともに、社会的認知・意識形成につながる
- ▶ **中津エリアの文化活動や地域福祉活動の機会を拡大し、また観光資源の創出による地域活性の促進**
- ▶ 日常的な連携を通じ、高潮等非常事態の発生時など**災害時の避難場所として地域の安全安心**の一役を担う

広域的展開が期待できるテーマ

【実施可能性について】

- 地域コミュニティ（地域活動協議会、地域社協、自治会、PTA、商店街など）連携については、本法人の歴史的役割や意義が認められており、期待も大きい。丁寧に連携を進める段階にある。とくに中津エリアのまちづくりが活発で、連携による相乗効果が期待できる。
- 本法人は歴史的にも福祉系団体との関係が強く（地域・広域ともに）、協働による事業実現性は高い
- アートについては、現時点でも大阪中之島美術館、関西美術系大学美術部OB関係者、大手企業で興味を持つメンバーも多く、ボランティアをはじめアートを通じた育みプログラムづくりも可能。絵画を保管する大阪中之島美術館からの佐伯祐三グッズの協力も得ている。
- 近畿大学建築学部研究室は、設計・模型・まちづくりの実績があり、地域コミュニティをつなぐメディアとなりうる。本事業の実践検証（調査分析）を実施予定。

5. 検証方法

アフォーダンス・デザインの導入

障がいに応じた「五感」+「感覚運動」を受け止める順応型のアフォーダンス・デザイン導入と防災性(機能)確保

- ①居場所を变幻させる可動建具(壁)の開発
- ②「防災」をテーマに安心と連携を生み出す拠点づくり(居室フロア+屋上)

→プロトタイプ3ユニット製作
→活動実績=0→4回/年
防災連携イベント2回

新たなセツルメント拠点の再生

- 障がい者・施設に対する忌避意識
- 閉じた施設→緩やかにまちに開く施設へ
- ③アートがつむぐみんなのアトリエ
1Fクラフト室・ギャラリー・カフェ

→利用実態調査・意識調査

→利用実績=0→50回/年
→アート型中間的就労の検討
グッズ制作販売(販路開拓)試行
→利用者=0→1000人/年

- ④アートをフックに人を誘うプロムナード

アーカイブがつなぐ今と未来

- 認知度を上げ、歴史を現代に
- 連携・共創・発信機能の充実
- ⑤図面化・模型製作(初代・現在・新築建物)
- ⑥現代版善隣館セツルメントチームの結成

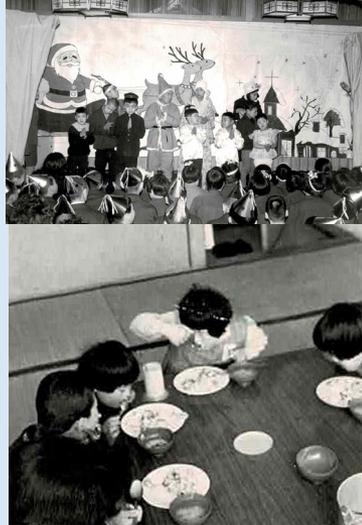
→HP,SNSネットワーク(300名)
実績を分析
→2図面(初代・現在)、3模型
→100周年記念委員会設置
→テーマ別チーム設置と企画実践

本館全体として実績検証想定値

- 来場者数の把握(1年間で現状の2倍の達成)
- 障がい者の居住(現状利用者20名(定員35名)計法定員35名)、利用者(15名増:計画)
- 来場者数の属性(年齢、居住地)の把握(目的設定:中津エリア以外の来場者数が半数以上)
- メディア露出の数(5社)

調査研究チームを設置して実践検証

報告書・シンポジウム等の開催



未来へ

現建物からの引っ越し
夢の新建物に戻る日を楽しみに

